

児童室だより No. 88 (2014. 7発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだものがたり・ちしきの本

本の情報	内容
<p>『あひるの手紙』</p> <p>朽木洋 作 ささめやゆき 絵 佼成出版社 2014.3</p> <p>【小低】</p>	<p>ある春の日、ほんまち小学校の一年生のクラスに「たなかけんいち」さんから手紙が届きました。けんいちさんは近所に住む24さいの青年ですが、ひらがなをかけるようになったので一年生の子どもたちと文通を希望していると校長先生が教えてくれました。子どもたちはけんいちさんと文通することになりましたが、手紙には「あひる」の文字だけ。どうやって返事をしようか、みんなは考えてしりとりで文通をはじめることになりました。</p> <p>(J913-クツ-1110824407)</p>
<p>『メリサンド姫 むてきの算数！』</p> <p>E. ネズビット 作 灰島かり 訳 高桑幸次 絵 小峰書店 2014.2</p> <p>【小中】</p>	<p>ある国にメリサンド姫というとてもかわいいお姫様が生まれました。ところが悪い妖精に呪いをかけられ、つるつる頭にされてしまいました。やがて大きくなったメリサンド姫は名づけ親の妖精からもらった宝箱に願い事をしますが、切るたびに倍の速さで髪が伸びるようにと願ったため、やがて姫の髪の毛は部屋中いっぱいまで伸びてしまいます。そんなメリサンド姫を救おうとあらわれたのはフロリゼルという名前の王子様でした。</p> <p>(J933-ネズ-1110813557)</p>
<p>『ゾウがとおる村』</p> <p>ニコラ・デイビス 文 もりうちすみこ 訳 アナベル・ライト 画 さ・え・ら書房 2014.2</p> <p>【小中】</p>	<p>ウィレンの住む村はゾウの通り道にあるため、作物を荒らされたり小屋を壊されたりしていました。テングおじさんは森を切り開いて紅茶とパイナップル畑をやろうと言い出しますが、ウィレンのおじさんは反対します。間もなくやってきた台風で村は大きな被害にあい、おじさんは亡くなってしまいます。習慣に従っておじさんの生まれ故郷に行ったウィレンが見たものは、かつては緑の森だったという荒れ果てた草原でした。ウィレンは森を守ろうと決意し、行動を起こしました。</p> <p>(J933-テイ-1110813252)</p>
<p>『戦場のオレンジ』</p> <p>エリザベス・レアード 作 石谷尚子 訳 評論社 2014.4</p> <p>【小高】</p>	<p>地中海に面した国レバノンでは長い間内戦が続いていました。首都ベイルートは東と西に分断され、その境界線であるグリーンラインと呼ばれるところは戦いが続くとても危険な場所でした。10歳のアイーシャは病気になったおばあちゃんを助けようと、薬をもらいに主治医のライラ先生を探しに行こうとしますが、それにはグリーンラインの向こうまで行かなければなりません。そこには敵の兵士たちがたくさんいるのです。</p> <p>(J933-レア-1110838411)</p>
<p>『ラモーゼ プリンス・イン・エグザイル 上・下』</p> <p>キャロル・ウィルキンソン 作 入江真佐子 訳 くもん出版 2014.3</p> <p>【小高～YA】</p>	<p>ファラオ（エジプトの王）の三男ラモーゼは父の後妻である王妃から命を狙われますが、乳母と家庭教師により助けられ、王家の墓づくりの書記の弟子としてひそかに生き延びました。ラモーゼは奴隷をしているカロヤ、墓づくりの絵師の弟子のハブと仲良くなりたくましく生き抜いていきます。苦難の末、何とか宮殿に戻ったラモーゼでしたが、待っていたのは父の死と信じていた姉の裏切りでした…。古代エジプトを舞台にした冒険物語。</p> <p>(J933-ウイ-1110818070,1110818080)</p>
<p>『石の神』</p> <p>田中彩子 作 一色 画 福音館書店 2014.4</p> <p>【小高～YA】</p>	<p>上州（現在の群馬県）の石屋「大江屋」で石工見習いとして働いている寛次郎のところに、ある日申吉という少年がやって来ました。どこか謎めいたところのある申吉、実の名は捨吉といい、「石神」を祀る「荒れ地」という場所で育ったのでした。職人気質の寛次郎に天才肌の申吉、石工職人を目指す中で、次第に二人は心を通わせるようになっていくのですが…。江戸時代の石屋を舞台に、二人の少年の成長を描いた物語です。</p> <p>(J913-タ-1110835124)</p>

本の情報	内容
<p data-bbox="279 208 638 280">『織物を未来の色に染めて カンボジアの二人の少女』</p> <p data-bbox="375 331 542 392">秋山浩子 文 汐文社 2014.3</p> <p data-bbox="406 425 510 459">【小中～】</p>	<p data-bbox="715 208 1380 448">カンボジアの少女サリカとダラは「若者の家」という施設で暮らしています。二人は貧困や人身売買によって過酷な子ども時代を過ごしてきました。「若者の家」はそうした子どもたちを救うために、日本のNPO法人が作った施設です。ここで子どもたちは勉強をしたり職業訓練を受けています。現在サリカは糸を染めてカンボジアの伝統的な絹織物を織り、ダラは縫製の工房でおしゃれなバッグを仕立てるまでになりました。未来に向かって生きている二人の様子が描かれています。</p> <p data-bbox="1141 459 1380 488">(J369-アキ-1110818052)</p>
<p data-bbox="223 499 694 571">『思い出をレスキューせよ！ “記憶をつなぐ”被災地の紙本・書籍修復士』</p> <p data-bbox="359 622 558 683">堀米薫 著 くもん出版 2014.2</p> <p data-bbox="406 716 510 750">【小中～】</p>	<p data-bbox="715 499 1380 739">「思い出を救うことは、被災した人がこれから生きていくための大きな力になる」…そう信じ、立ち上がった一人の女性がいます。女性の名前は金野聡子さん。岩手県大船渡市に住む、日本では数少ない「紙本・書籍保存修復士」です。彼女が始めたのは東日本大震災で被災した多くの写真を洗浄すること。それは故郷のために何か役に立ちたいという思いからでした。この本は金野さんが修復士になるまでと現在の活動を描いています。紙が持っている力がひしひしと伝わってきます。</p> <p data-bbox="1141 750 1380 779">(J369-ホリ-1110815794)</p>